

令和 6〔2024〕年

広島県観光客数の動向

令和 7 年 7 月

一般社団法人広島県観光連盟(HIT)

目 次

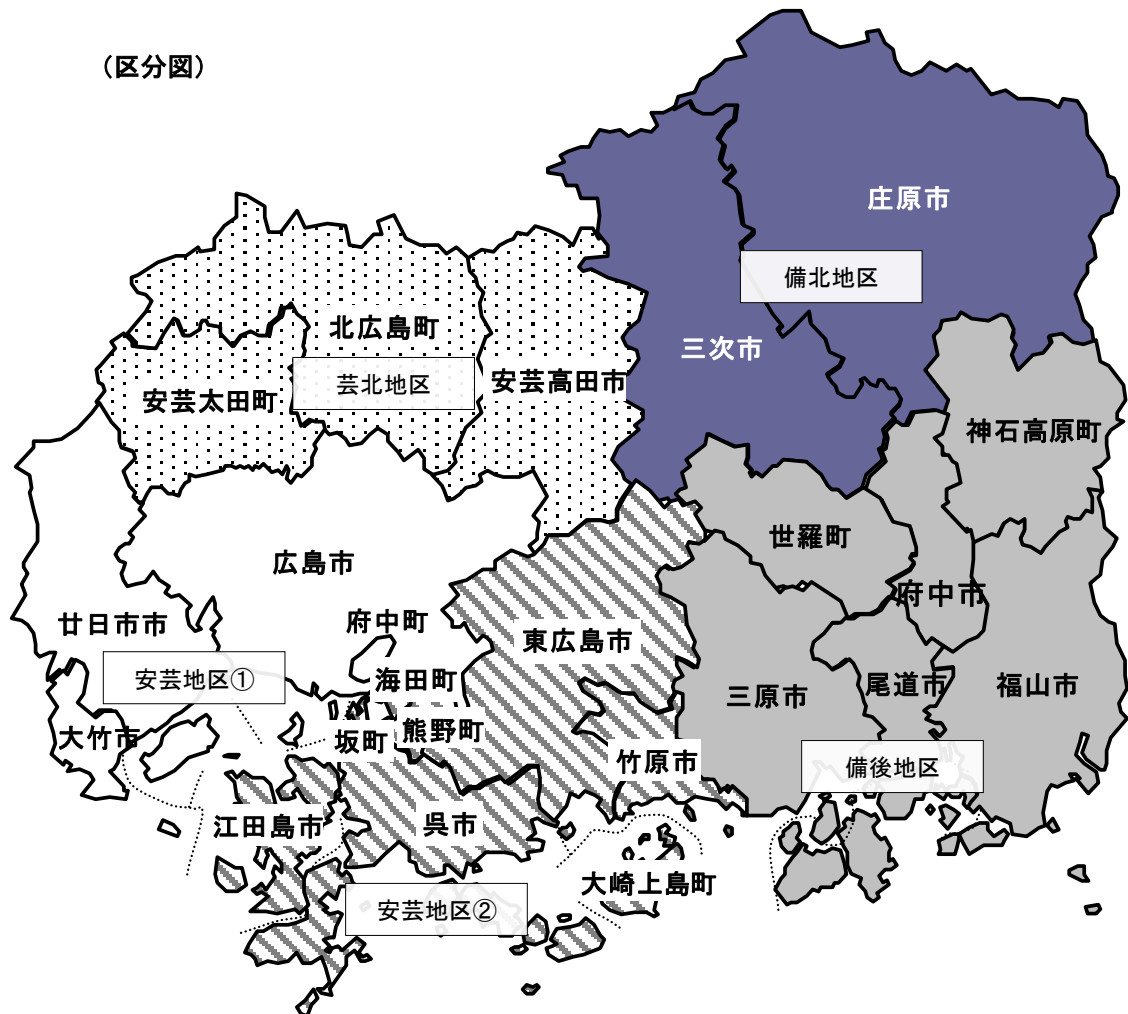
I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	2
1	観光客数の状況	2
(1)	総観光客数の概況	2
(2)	地区別観光客数の状況	3
(3)	発地別観光客数の状況	6
(4)	目的別観光客数の状況	12
(5)	旅行形態別観光客数の状況	13
(6)	交通機関別観光客数の状況	14
(7)	月別観光客数の状況	15
2	外国人観光客数の状況	16
(1)	外国人観光客数の概況	16
(2)	市場別外国人観光客数の状況	17
3	宿泊客数の状況	19
(1)	宿泊客数の概況	19
(2)	地区別宿泊客数の状況	19
(3)	月別宿泊客数の状況	21
4	観光消費額の状況	22
III	観光客数統計表	23
	第1表 総観光客数の推移	
	第2表 令和6年発地別観光客数と観光消費額	
	第3表 令和6年目的別観光客数	
	第4表 令和6年旅行形態別・交通機関別観光客数	
	第5表 令和6年月別観光客数	
	第6表 令和6年県内主要・有料観光施設の月別利用状況	
	第7表 令和6年市場別外国人観光客数	
	第8表 令和6年月別宿泊客数	

I 調 査 の 概 要

この調査は、本県の観光客数、観光消費額等の実態を把握し、観光振興施策の立案、実施に当たっての基礎資料とすることを目的として、市町の協力を得て毎年実施しており、市町ごとに観光客数、発地、目的、形態、利用交通機関、外国人観光客数、宿泊客数、観光消費額等について調査したものである。

- 1 この調査は、各市町等が令和6年1月から12月までの1年間（暦年）の当該市町の観光客数等を推計し、一般社団法人広島県観光連盟（HIT）で取りまとめたものである。
- 2 各市町の観光客数及び宿泊客数は、延べ人数である。
- 3 掲載した図・表の数値については、単位未満の端数処理を行っているため、観光客数統計表の数値と一致しない場合がある。また、観光客数統計表の数値についても同様であり、表内の項目計や表間で一致しない場合がある。
- 4 観光客数の状況等を地区別にみるため、下記の5地区に区分して整理している。

（区分図）



Ⅱ 調査結果の概要

1 観光客数の状況

(1) 総観光客数の概況

① 令和6年の総観光客数

令和6年の総観光客数は6,474万人で、前年と比べて437万人（＋7.2％）増加した。

主な要因としては、新型コロナウイルス感染症の収束により観光需要が回復したことに加え、広島空港の国際線直行便の再開や新規就航、円安の継続によって訪日需要が高まったことを背景に、外国人観光客数が増加したことが挙げられる。なお、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成31（令和元）年と比べると、246万人（▲3.7％）の減少となっており、国内の物価高騰等が影響し、国内観光客が新型コロナウイルス感染症拡大前の水準まで回復していないことが要因として挙げられる。

図表1-1 総観光客数の比較

（単位：万人）

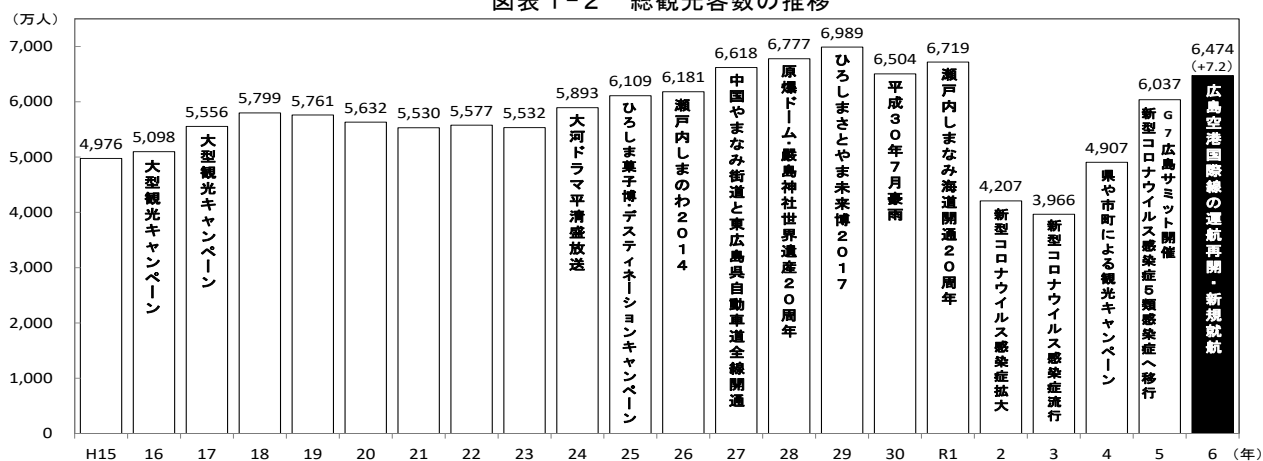
区 分	平成31 (令和元)年	令和5年	令和6年	増減数 R6-R5	増減率 R6/R5	増減数 R6-R元(H31)	増減率 R6/R元(H31)
総観光客数	6,719	6,037	6,474	+437	+7.2%	▲245	▲3.7%

② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成25年に初めて6,000万人を突破した後、平成29年まで6年連続で過去最高を更新しており、順調に推移していたが、平成30年は西日本豪雨災害等の影響により前年を6.9％下回ることとなった。

平成31（令和元）年は回復に転じたものの、令和2年には、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により大幅に減少した。令和4年以降は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和や、県や市町による観光キャンペーン等の実施、G7広島サミットの開催等に伴い、徐々に観光客数が回復し、令和6年はコロナ前と同水準程度にまで回復した。

図表1-2 総観光客数の推移



区 分	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
総観光客数	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632	5,530	5,577	5,532	5,893	6,109
対前年増減率	▲1.7%	2.5%	9.0%	4.4%	▲0.7%	▲2.2%	▲1.8%	0.8%	▲0.8%	6.5%	3.7%

区 分	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総観光客数	6,181	6,618	6,777	6,989	6,504	6,719	4,207	3,966	4,907	6,037	6,474
対前年増減率	1.2%	7.1%	2.4%	3.1%	▲6.9%	3.3%	▲37.4%	▲5.7%	23.7%	23.0%	7.2%

(2) 地区別観光客数の状況

① 市町別観光客数の状況

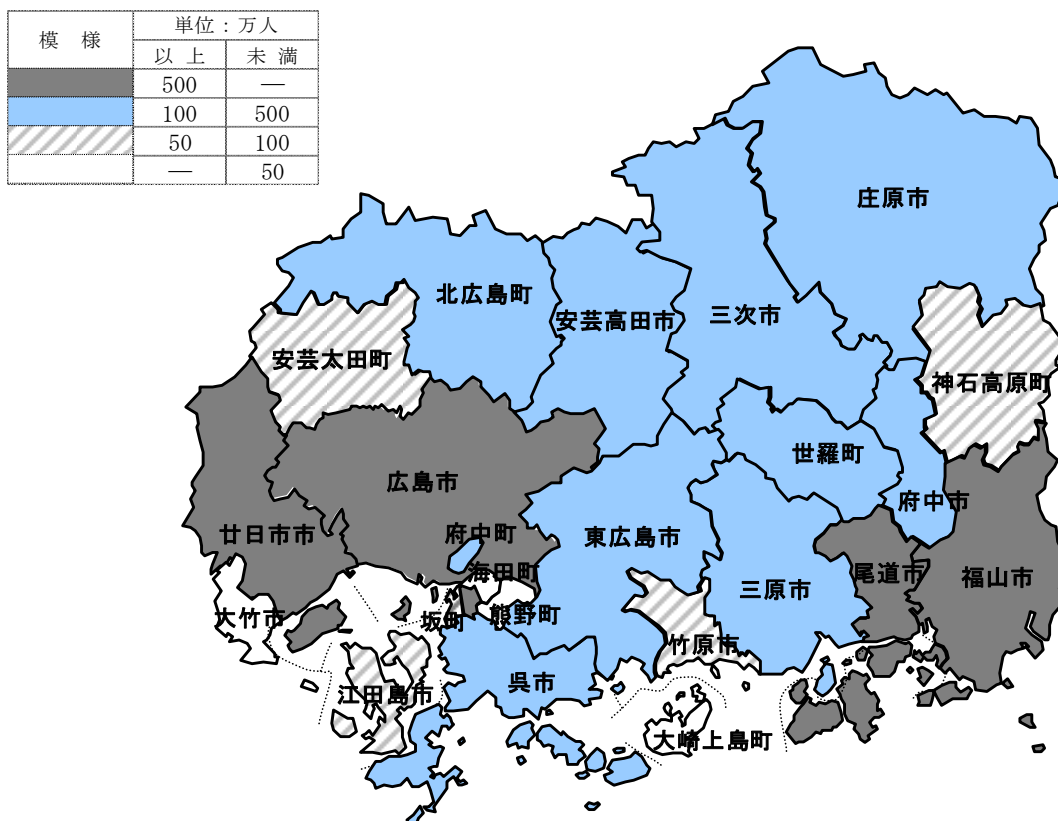
市町別にみると、総観光客数が 500 万人以上の市町は広島市、廿日市市、尾道市、福山市となっており、多くの市町で観光客数が前年よりも増加した。

前年よりも観光客数が減少した市町については、観光施設の休館による観光客数の減少や、猛暑や暖冬等の気候の影響から屋外観光施設の観光客数が減少したこと等が挙げられる。

図表 1-3 市町別観光客数の増減一覧

総観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市、廿日市市、尾道市、福山市	
100～500 万人未満	10 市町	三原市、呉市、世羅町、安芸高田市、府中町、府中市	東広島市、三次市、北広島町、庄原市
50～100 万人未満	5 市町	竹原市、坂町、江田島市、安芸太田町、神石高原町	
50 万人未満	4 市町	海田町、大崎上島町	大竹市、熊野町

図表 1-4 市町別観光客数の状況



② 市町別観光客数の順位（上位 10 市町）

観光客数を市町別にみると、上位 10 位となった市町に大きな変動はなく、前年と比べて、増加率は縮小したものの、観光客数が増加した市町が多かった。

8 位の世羅町は 12 万人（+5.2%）増加し、順位が上昇した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 31（令和元）年と比べると、広島県全体では減少しているものの、廿日市市（+5.1%）、三原市（+3.4%）、東広島市（+30.3%）、世羅町（+2.6%）安芸高田市（+30.5%）等、増加している市町もあった。

図表 1-5 市町別観光客数の順位（令和 6 年上位 10 市町）

（単位：万人、%）

順位	市町名	平成 31 (令和元)年	令和 5 年	令和 6 年	増減数 R6-R5	増減率 R6/R5	増減数 R6-R 元 (H31)	増減率 R6/R 元 (H31)	R5 順位
1 位	広島市	1,621	1,324	1,541	217	16.4%	▲80	▲4.9%	1 位
2 位	廿日市市	791	803	831	28	3.5%	40	5.1%	2 位
3 位	尾道市	683	658	667	9	1.4%	▲15	▲2.2%	3 位
4 位	福山市	630	530	556	26	4.9%	▲74	▲11.8%	4 位
5 位	三原市	416	368	431	63	17.0%	14	3.4%	5 位
6 位	東広島市	281	368	367	▲1	▲0.2%	85	30.3%	6 位
7 位	呉市	376	309	320	12	3.8%	▲56	▲14.8%	7 位
8 位	世羅町	229	224	235	12	5.2%	6	2.6%	9 位
9 位	安芸高田市	177	226	231	5	2.2%	54	30.5%	8 位
10 位	三次市	348	215	209	▲5	▲2.5%	▲138	▲39.8%	10 位

対前年増減率についてみると、全体的に増減率は縮小し、県全体の増加率は+7.2%であったが、それより増加率が大きい市町は 7 市町、県全体よりも増加率が小さい市町（減少した市町を含む）は 16 市町となった。

江田島市（+61.6%）が最も増加率が大きく、次いで坂町（+39.4%）、竹原市（+22.4%）の順となった。

図表 1-6 市町別観光客数の対前年増減率一覧（令和 6 年）

区分	市町数	市町名	対前年増減率
県全体の平均よりも 増加率が大きい市町	7 市町	江 田 島 市	+61. 6%
		坂 町	+39. 4%
		竹 原 市	+22. 4%
		大 崎 上 島 町	+18. 6%
		三 原 市	+17. 0%
		広 島 市	+16. 4%
		府 中 市	+13. 9%
県全体の平均よりも 増加率が小さい市町	16 市町	神 石 高 原 町	+5. 6%
		世 羅 町	+5. 2%
		福 山 市	+4. 9%
		海 田 町	+3. 9%
		呉 市	+3. 8%
		府 中 町	+3. 7%
		廿 日 市 市	+3. 5%
		安 芸 太 田 町	+2. 3%
		安 芸 高 田 市	+2. 2%
		尾 道 市	+1. 4%
		東 広 島 市	▲ 0. 2%
		大 竹 市	▲ 0. 3%
		庄 原 市	▲ 2. 3%
		北 広 島 町	▲ 2. 4%
		三 次 市	▲ 2. 5%
		熊 野 町	▲ 15. 0%
(参考) 県全体の平均			+ 7. 2%

（注） 江田島市は、調査対象施設の見直しにより、令和 6 年の調査施設が増加したため、過年度と単純に比較はできない。

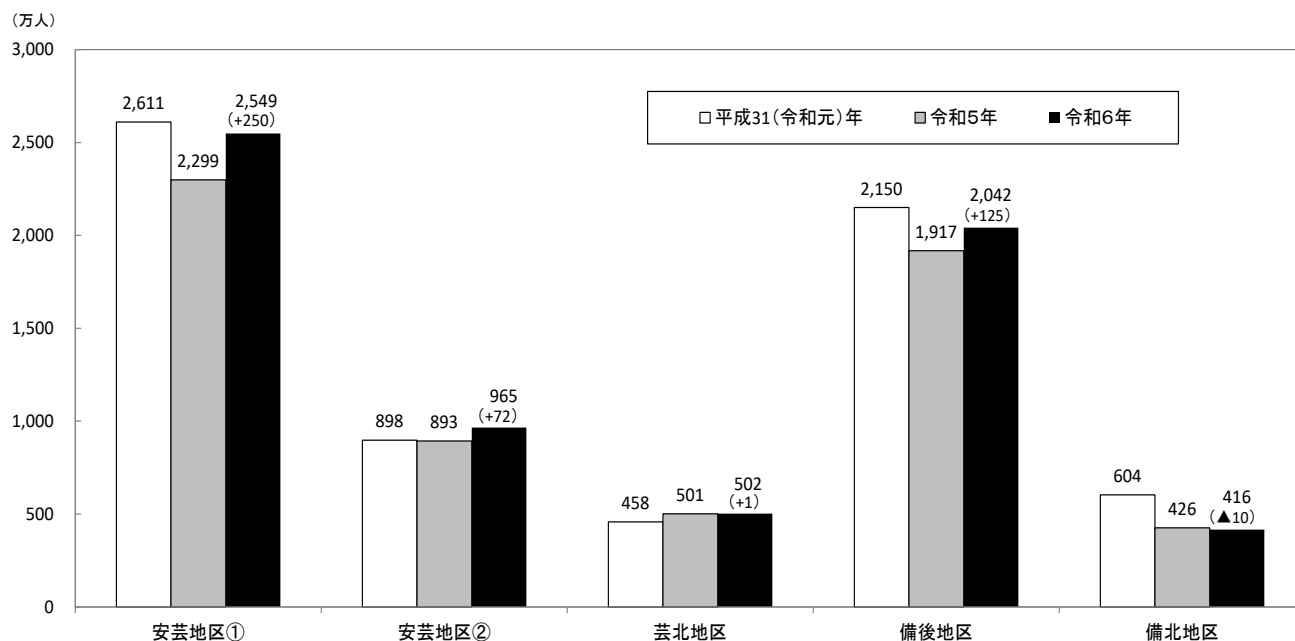
③ 地区別観光客数の状況

観光客数を地区別でみると、備北地区以外の地区では、前年よりも増加となった。

特に、安芸地区①が+10.9%（+250 万人）で最も増加率が大きく、次いで安芸地区②が+8.0%（+72 万人）、備後地区が+6.5%（+125 万人）の順となっている。

備北地区が減少した主な要因は、気温上昇に伴い、屋外施設の観光客数が減少したことなどが挙げられる。

図表 1-7 地区別観光客数の推移



(3) 発地別観光客数の状況

① 県内・県外別観光客数の状況

県内観光客（地元観光客を含む）数は、前年と比べて 178 万人増の 3,167 万人（+6.0%）、県外観光客数は 259 万人増の 3,307 万人（+8.5%）であった。

構成比でみると、県内観光客は 48.9%、県外観光客は 51.1%となっており、前年よりも県外観光客の割合が高くなった。

図表 1-8 県内・県外別観光客数の比較

（単位：万人）

区分	平成31(令和元)年 観光客数	令和5年 観光客数	令和6年 観光客数	増減数 R6-R5	増減率 R6/R5	増減数 R6-R元(H31)	増減率 R6/R元(H31)
県内	3,403 (50.6%)	2,989 (49.5%)	3,167 (48.9%)	+178	+6.0%	▲236	▲6.9%
県外	3,316 (49.4%)	3,048 (50.5%)	3,307 (51.1%)	+259	+8.5%	▲9	▲0.3%

（注）（ ）内は構成比を示す。

なお、県全体の観光客のうち、市町内（地元）観光客及び市町外観光客の構成比は、前年と比べてそれぞれ微減となり、令和6年の構成比は、市町内（地元）観光客が19.5%、市町外観光客が29.4%となっている。

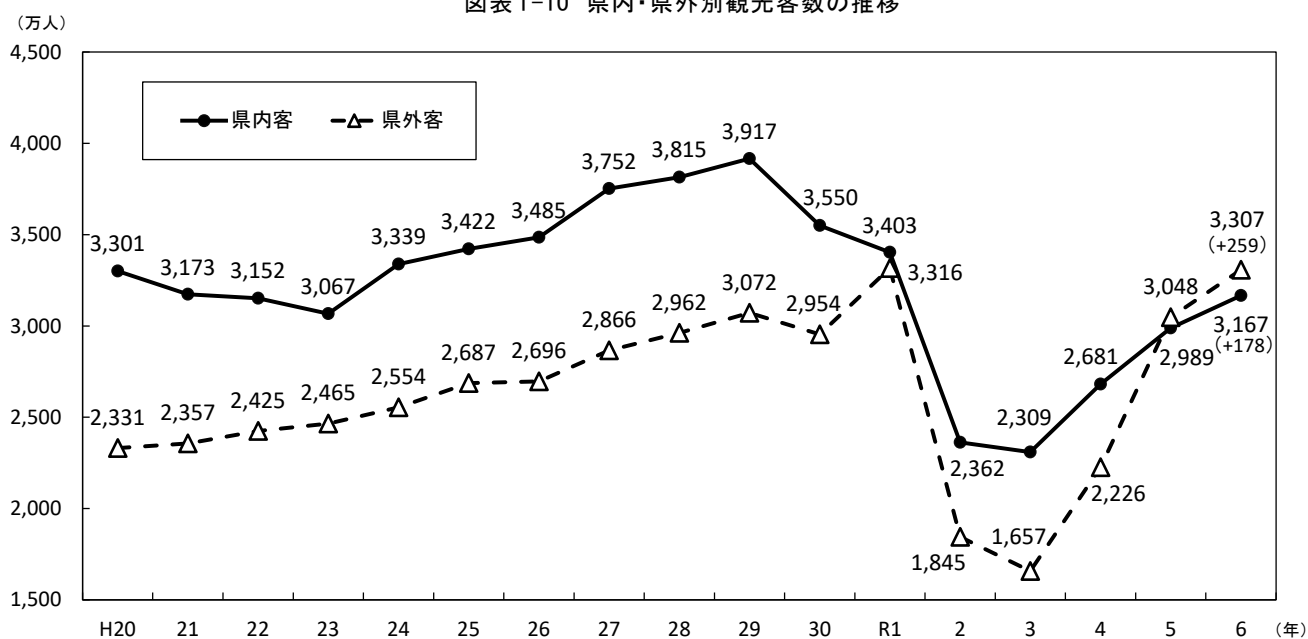
また、令和6年の構成比を、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成31（令和元）年と比べると、市町内（地元）観光客は3.6%減、市町外観光客は1.8%増、県外観光客は1.7%増となった。

図表1-9 市町内・市町外・県内外別観光客数の推移

（単位：万人）

区分	年次	県内観光客			県外観光客	総観光客数
		市町内（地元） 観光客	市町外観光客	計		
		(A)	(B)	(A)+(B)	(C)	(A)+(B)+(C)
実績	平成20年	1,415	1,886	3,301	2,331	5,632
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	5,530
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	5,577
	23年	1,508	1,559	3,067	2,465	5,532
	24年	1,636	1,703	3,339	2,554	5,893
	25年	1,690	1,732	3,422	2,687	6,109
	26年	1,737	1,748	3,485	2,696	6,181
	27年	1,863	1,889	3,752	2,866	6,618
	28年	1,897	1,918	3,815	2,962	6,777
	29年	1,981	1,936	3,917	3,072	6,989
	30年	1,750	1,800	3,550	2,954	6,504
	令和元年	1,549	1,854	3,403	3,316	6,719
	2年	996	1,367	2,362	1,845	4,207
	3年	976	1,333	2,309	1,657	3,966
	4年	1,145	1,536	2,681	2,226	4,907
	5年	1,202	1,787	2,989	3,048	6,037
	6年	1,261	1,906	3,167	3,307	6,474
構成比	平成20年	25.1%	33.5%	58.6%	41.4%	100.0%
	21年	25.8%	31.6%	57.4%	42.6%	100.0%
	22年	26.2%	30.3%	56.5%	43.5%	100.0%
	23年	27.3%	28.2%	55.4%	44.6%	100.0%
	24年	27.8%	28.9%	56.7%	43.3%	100.0%
	25年	27.7%	28.4%	56.0%	44.0%	100.0%
	26年	28.1%	28.3%	56.4%	43.6%	100.0%
	27年	28.2%	28.5%	56.7%	43.3%	100.0%
	28年	28.0%	28.3%	56.3%	43.7%	100.0%
	29年	28.3%	27.7%	56.0%	44.0%	100.0%
	30年	26.9%	27.7%	54.6%	45.4%	100.0%
	令和元年	23.1%	27.6%	50.6%	49.4%	100.0%
	2年	23.7%	32.5%	56.2%	43.8%	100.0%
	3年	24.6%	33.6%	58.2%	41.8%	100.0%
	4年	23.3%	31.3%	54.6%	45.4%	100.0%
	5年	19.9%	29.6%	49.5%	50.5%	100.0%
	6年	19.5%	29.4%	48.9%	51.1%	100.0%

図表1-10 県内・県外別観光客数の推移



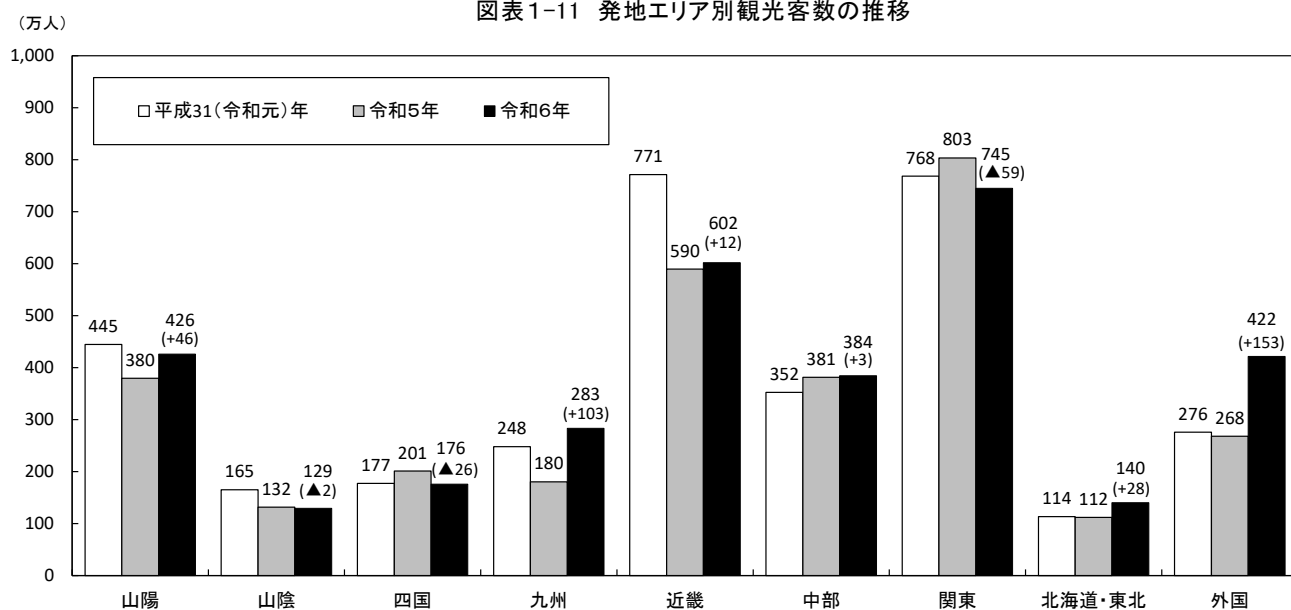
② 発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数は、関東地方が最も多く 745 万人 (▲59 万人) となった。

前年と比べて最も増加率が高いのは、外国+57.2% (+153 万人) で、次いで九州地方+56.9% (+103 万人) となった。

主な要因としては、観光需要が回復する中での物価高騰を背景に、国内旅行では費用を抑えた中距離地域への需要が高まったことや、円安の継続や国際線の再開・新規就航等による外国人観光客の増加が挙げられる。

図表1-11 発地エリア別観光客数の推移



県外客の発地エリア別観光客数の割合は、関東地方が 22.5%で最も高く、次いで近畿地方が 18.2%、山陽地方が 12.9%の順となった。

前年と比べると、外国からの観光客の割合が+3.9 ポイントと最も増加している。

図表 1-12 発地エリア別観光客数の割合

区 分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	北海道・東北	外国
平成 31 (令和元) 年	13.4%	5.0%	5.3%	7.5%	23.3%	10.6%	23.2%	3.4%	8.3%
令和 5 年	12.5%	4.3%	6.6%	5.9%	19.3%	12.5%	26.4%	3.7%	8.8%
令和 6 年	12.9%	3.9%	5.3%	8.6%	18.2%	11.6%	22.5%	4.2%	12.7%

③ 地区別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数を地区別にみると、安芸地区①では近畿地方、関東地方からの割合が高く、県北部の芸北地区及び備北地区においては、山陽地方、山陰地方からの割合が高くなっている。

図表 1-13 地区別・発地エリア別観光客数の割合(令和6年)

区 分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	北海道・東北	外国
県全体	12.9%	3.9%	5.3%	8.6%	18.2%	11.6%	22.5%	4.2%	12.7%
安芸地区 ①	5.5%	1.6%	3.4%	9.0%	16.6%	13.9%	26.2%	5.3%	18.5%
安芸地区 ②	18.8%	8.2%	11.3%	10.4%	18.0%	11.7%	14.8%	4.2%	2.7%
芸北地区	58.6%	17.3%	3.4%	10.9%	4.3%	1.0%	2.7%	0.8%	0.9%
備後地区	20.0%	3.9%	6.9%	6.8%	23.1%	8.7%	21.0%	2.6%	6.8%
備北地区	31.5%	28.8%	7.9%	8.5%	13.3%	2.7%	5.5%	0.7%	1.1%

④ 市町別にみた県内・県外観光客数の状況

総観光客数の上位4市及び呉市においては、県外観光客の割合が非常に高くなっている。

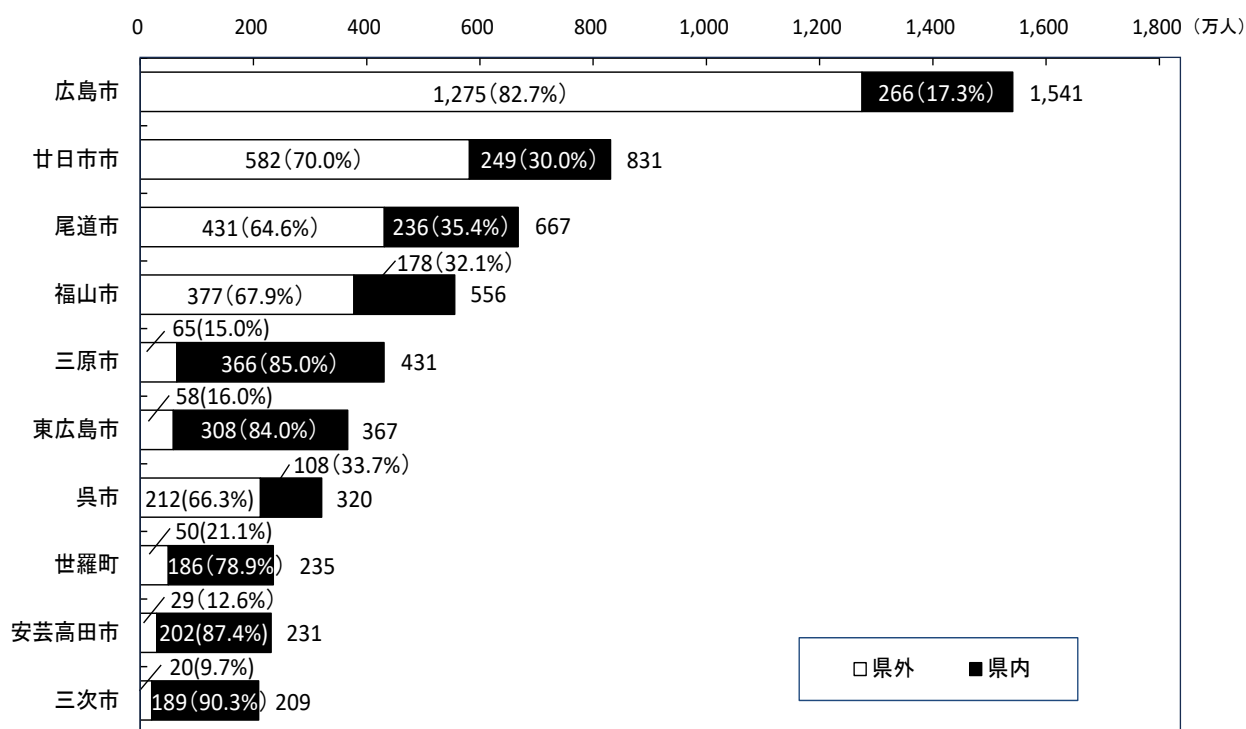
上位4市よりも5位の三原市の方が県内観光客数は多く、総観光客数が上位の市町は県外観光客が全体を押し上げていることが見受けられる。

総観光客数の上位10市町をみると、県外観光客が最も多いのは広島市で1,275万人であった。

また、総観光客数の上位10市町の中で、県外観光客の割合が県全体の平均50.1%を上回っているのは、広島市(82.7%)、廿日市市(70.0%)、尾道市(64.6%)、福山市(67.9%)、呉市(66.3%)の5市であった。

一方、総観光客数の上位10市町の中で、県内観光客の割合が最も大きいのは三次市(90.3%)、次いで安芸高田市(87.4%)であった。沿岸部の市町においては県外観光客の割合が大きく、県央及び県北に位置する市町においては県内観光客の割合が大きい傾向にある。

図表1-14 市町別・県内・県外別観光客数の状況(令和6年、上位10市町)



⑤ 市町別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外からの観光客数が多い上位5市は、全て沿岸部に位置する市となった。広島市、廿日市市、尾道市については、関東地方からの割合が最も高く、広島市、廿日市市、尾道市においては、外国からの割合が1割を超えている。

図表1-15 市町別・発地エリア別観光客数の割合（令和6年、県外客数上位5市）

区 分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	北海道・東北	外国
広島市	3.3%	0.6%	2.7%	11.1%	15.6%	15.3%	27.7%	3.9%	19.7%
廿日市市	7.8%	3.6%	5.1%	4.5%	19.1%	11.2%	23.8%	8.6%	16.3%
尾道市	8.6%	2.2%	4.4%	6.3%	24.6%	12.3%	25.2%	4.1%	12.3%
福山市	20.3%	2.6%	7.6%	8.7%	26.7%	7.5%	22.4%	1.8%	2.4%
呉市	13.6%	3.5%	9.9%	12.9%	19.6%	15.8%	16.8%	5.7%	2.3%

(4) 目的別観光客数の状況

目的別にみると、前年までに続き、「都市観光」の割合（45.5%）が最も大きいものの、「ショッピング、レストラン等」「博物館、美術等」とともに、前年と比べて割合は低下した。

なお、県内の主要な祭りや花火大会等のイベントへの来場者数が増加したことにより、「祭、行事」の割合が前年と比べて 3.1 ポイント増加した。

図表 1-16 目的別観光客数の割合（上位 10 項目）

区 分	都市観光		祭、 行事	神社、 仏閣	大規模 公園、 レクリエーション 施設等	その他 スポーツ	自然 探勝	温泉	ハイキング、 登山、 キャンプ	産業 観光
	ショッピング、 レストラン 等	博物館、 美術館 等								
平成 31 （令和元）年	21.4%	18.3%	15.7%	7.9%	7.7%	6.3%	5.0%	3.6%	2.5%	2.2%
令和 5 年	27.4%	19.0%	11.8%	8.7%	4.4%	5.5%	5.9%	2.8%	2.8%	2.0%
令和 6 年	26.8%	18.7%	15.0%	8.4%	5.9%	5.6%	4.7%	2.9%	2.2%	2.0%

（注）都市観光：都市を見たり、都市で学んだりすることを目的としたもの（博物館、美術館等）：美術館、博物館、動・植物園、水族館等
（ショッピング、レストラン等）：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等

地区別に目的別観光客の割合をみると、すべての地区において「都市観光」の割合が最も高く、特に安芸地区①では「博物館、美術館等」、芸北地区では「ショッピング、レストラン等」の割合が高くなった。

「都市観光」以外では、安芸地区及び備後地区の「祭、行事」、安芸地区①の「神社、仏閣」、備北地区の「自然探勝」等の割合が高く、各地区における観光プロダクトの特色が表れている。

図表 1-17 地区別・目的別観光客数の割合（令和6年、上位 10 項目）

区 分	都市観光		祭、 行事	神社、 仏閣	大規模 公園、 レクリエーション 施設等	その他 スポーツ	自然 探勝	温泉	ハイキング、 登山、 キャンプ	産業 観光
	ショッピング、 レストラン 等	博物館、 美術館 等								
県全体	26.8%	18.7%	15.0%	8.4%	5.9%	5.6%	4.7%	2.9%	2.2%	2.0%
安芸地区①	11.0%	36.5%	22.4%	15.3%	3.3%	1.8%	2.5%	1.8%	2.6%	1.6%
安芸地区②	29.6%	16.8%	12.9%	0.0%	11.7%	11.0%	3.0%	3.9%	1.1%	4.7%
芸北地区	59.0%	0.6%	3.6%	0.1%	0.4%	9.2%	9.6%	3.9%	2.9%	1.3%
備後地区	35.7%	4.6%	11.5%	7.3%	6.2%	5.5%	5.6%	2.6%	1.6%	1.7%
備北地区	34.1%	4.3%	4.5%	0.6%	14.1%	12.0%	10.6%	7.5%	4.7%	0.0%

(5) 旅行形態別観光客数の状況

観光客を一般客、団体客、修学旅行者^(注)別にみると、一般客は前年から 382 万人増加して 5,804 万人、団体客は 62 万人増加して 601 万人となった。修学旅行者については、新型コロナウイルス感染症の影響により近場に変更して実施していた学校が、遠方の訪問先に戻したこと等により、前年と比べて 7 万人減少し、69 万人となった。

構成比でみると、県全体では一般客が約 9 割を占めている。エリア別にみると、安芸地区および備北地区では比較的団体客の構成比が高いほか、安芸地区①は修学旅行者の構成比も高い。

なお、推移でみると、年々増加傾向にあった一般客は令和 2 年以降大幅に減少したが、令和 4 年以降は徐々に増加し、令和 6 年は、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 31（令和元）年とほぼ同水準まで回復した。

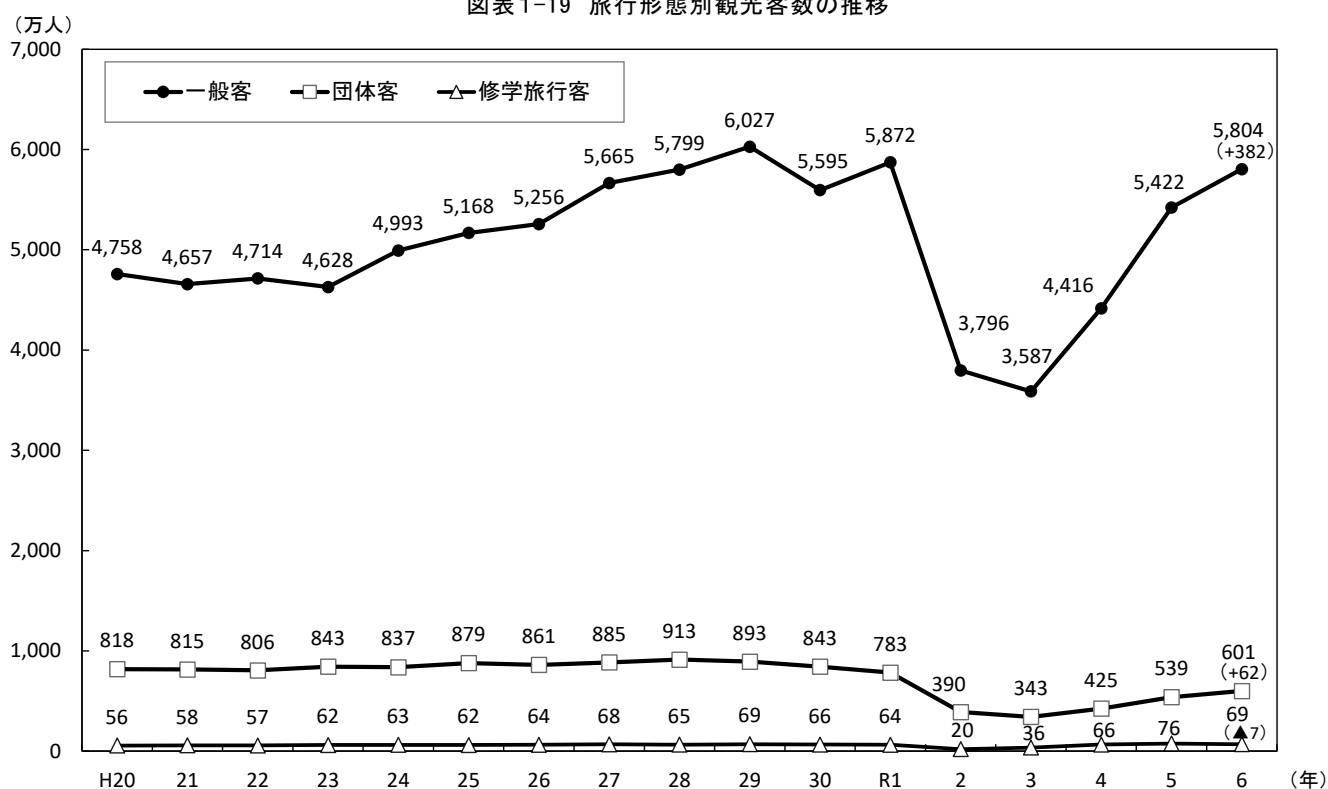
図表 1-18 地区別・旅行形態別観光客数及び構成比

(単位：万人)

区 分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	5,804	89.7%	601	9.3%	69	1.1%
安芸地区①	2,217	87.0%	268	10.5%	64	2.5%
安芸地区②	877	90.8%	85	8.8%	4	0.4%
芸北地区	459	91.3%	43	8.6%	0	0.1%
備後地区	1,895	92.8%	145	7.1%	1	0.1%
備北地区	356	85.7%	59	14.3%	0	0.0%

(注) 一般客：団体客、修学旅行者以外の旅行者、団体客：10 人以上の団体旅行者

図表 1-19 旅行形態別観光客数の推移



(6) 交通機関別観光客数の状況

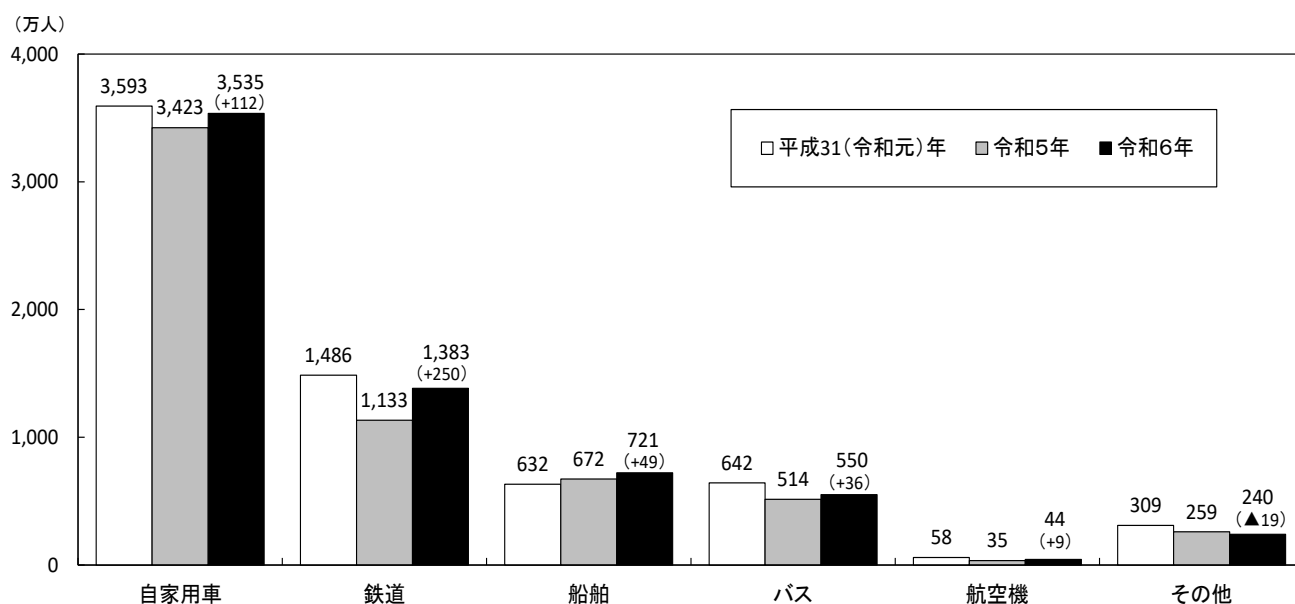
令和6年の交通機関別観光客数をみると、自家用車利用者が3,535万人と最も多く、観光客全体の54.6%を占めている。次いで鉄道利用者が1,383万人、船舶利用者が721万人、バス利用者が550万人、航空機利用者が44万人であった。

新型コロナウイルス感染症が流行していた令和2～3年は感染症対策への意識の高まりにより、自家用車利用者の割合が増加し、その他の交通機関の割合はいずれも減少していたが、令和6年は、概ね感染症流行前の傾向に戻っている。

図表1-20 交通機関別観光客数の構成比

区 分	自家用車	鉄道	船舶	バス	航空機	その他
平成31 (令和元)年	53.5%	22.1%	9.4%	9.6%	0.9%	4.6%
令和5年	56.7%	18.8%	11.1%	8.5%	0.6%	4.3%
令和6年	54.6%	21.4%	11.1%	8.5%	0.7%	3.7%

図表1-21 交通機関別観光客数の推移



(7) 月別観光客数の状況

令和6年の月別観光客数は、年間を通して前年より増加した。

1月は「広島県宿泊促進キャンペーン」を実施した影響等により前年同月と比べて10.3%増(420万人)となった。

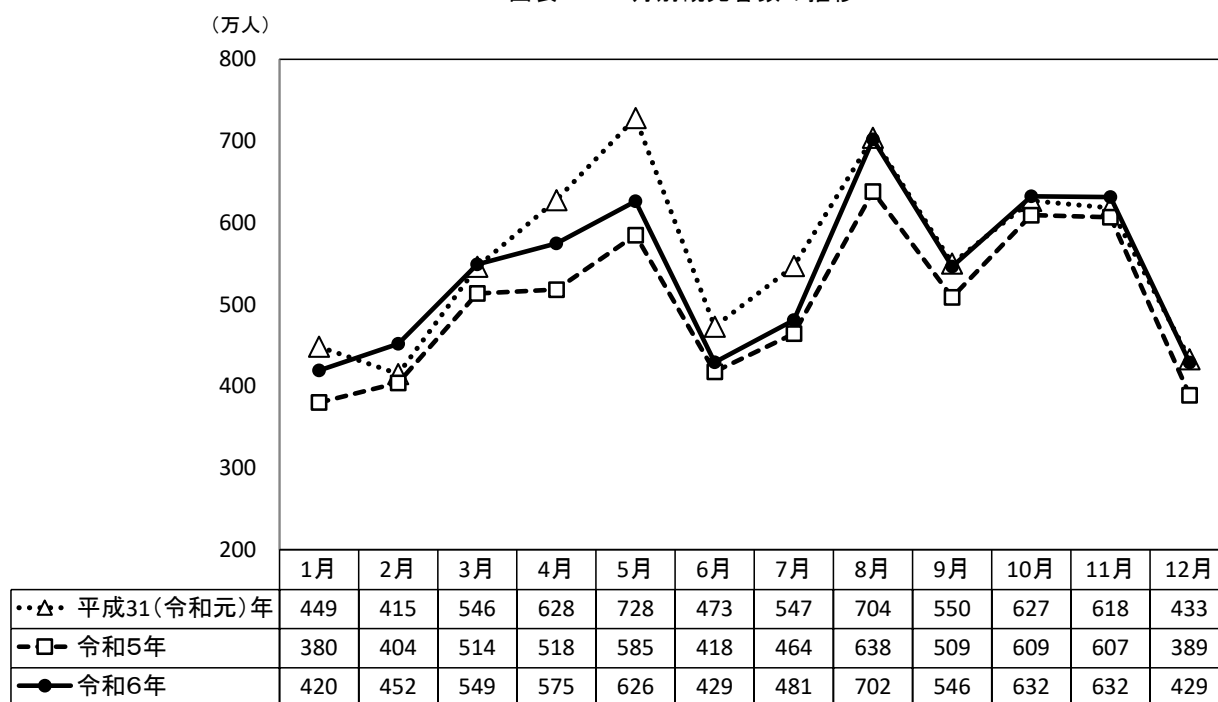
2月は、新サッカースタジアムの開設や広島空港の国際線直行便(広島ーソウル)の増便等が影響し、前年同月と比べて11.8%増(452万人)となった。

3月～4月にかけては、桜の開花シーズンを迎え、国内の観光需要も伸びるとともに、円安基調を背景に外国人観光客が多く訪れたことなどにより、前年同月と比べ、3月は6.9%増(549万人)、4月は10.9%増(575万人)となった。

5月以降は、県内各地でイベントや祭行事、式典が通常規模で開催されたことにより、5月は7.1%増(626万人)、6月は2.7%増(429万人)、7月は3.5%増(481万人)、8月は10.0%増(702万人)、9月は7.4%増(546万人)となった。

10月以降は、日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞等が影響し、10月は3.8%増(632万人)、11月は4.1%増(632万人)、12月は10.3%増(429万人)となった。

図表1-22 月別観光客数の推移



2 外国人観光客数の状況

(1) 外国人観光客数の概況

外国人観光客数については、平成 31（令和元）年まで 8 年連続で過去最高を更新していたが、令和 2 年は 9 年ぶりに減少に転じ、以降は、新型インフルエンザが発生した平成 21 年の 51.3 万人や、東日本大震災が発生した 48.7 万人等を下回る結果となっていた。

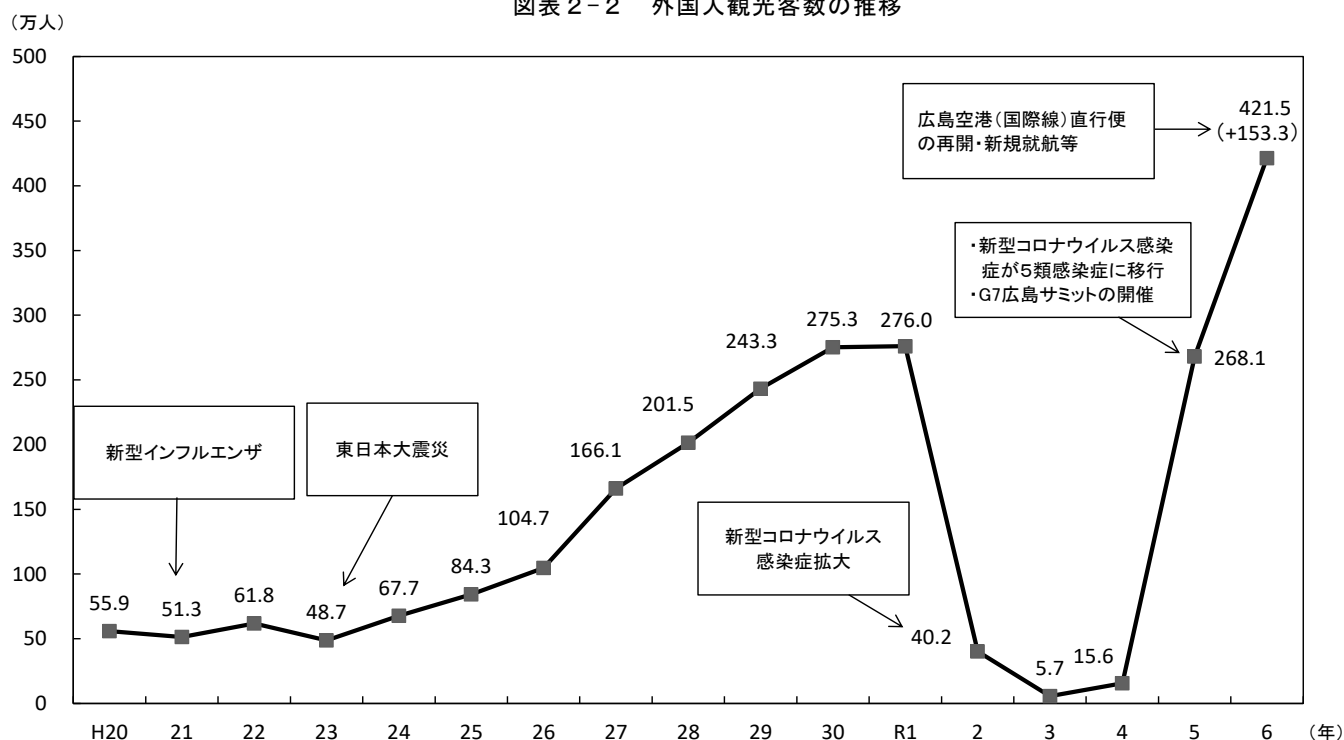
令和 6 年は、継続的な円安により訪日需要が高まっていることを背景とし、広島空港の国際線における運行再開や新規就航等により利便性が高まったことも影響し、前年と比べて、153.3 万人増の 421.5 万人となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 31（令和元）年と比べると 145.5 万人（+52.7%）増加し、過去最高の外国人観光客数を記録した。

図表 2-1 外国人観光客数の比較

（単位：万人）

区 分	平成 31 (令和元)年	令和 5 年	令和 6 年	増減数 R 6 - R 5	増減率 R 6 / R 5	増減数 R 6 - R 元 (H31)	増減率 R 6 / R 元 (H31)
外国人 観光客数	276.0	268.1	421.5	+153.3	+57.2%	+145.5	+52.7%

図表 2-2 外国人観光客数の推移



(2) 市場別外国人観光客数の状況

市場別外国人観光客数をみると、令和6年は、アメリカが最も多く 555.6 千人（+186.7 千人）、次いでオーストラリアが 325.5 千人（+85.3 千人）、フランスが 322.4 千人（+86.1 千人）の順となった。

すべての主要市場で増加しており、特に、令和6年1月に広島空港への直行便が増便となった韓国については、大きく順位が上昇した。

図表2-3 市場別外国人観光客数の順位（上位10市場）

（単位：千人）

順位	市場名	平成31 (令和元)年	令和 5年	令和 6年	増減数 R6-R5	増減率 R6/R5	増減数 R6-R元(H31)	増減率 R6/R元(H31)	R5 順位
1位	アメリカ	369.3	368.9	555.6	+186.7	+50.6%	+186.3	+50.4%	1位
2位	オーストラリア	227.0	240.1	325.5	+85.3	+35.5%	+98.4	+43.4%	2位
3位	フランス	184.5	236.3	322.4	+86.1	+36.5%	+137.9	+74.7%	3位
4位	イギリス	198.9	173.2	292.2	+119.0	+68.7%	+93.3	+46.9%	5位
5位	台湾	264.3	173.8	262.5	+88.7	+51.0%	▲1.8	▲0.7%	4位
6位	韓国	72.9	65.9	246.8	+181.0	+274.7%	+174.0	+238.8%	11位
7位	ドイツ	103.1	158.5	210.9	+52.4	+33.1%	+107.8	+104.6%	6位
8位	イタリア	68.1	115.6	177.5	+61.9	+53.5%	+109.4	+160.6%	8位
9位	中国	169.4	74.4	154.4	+80.1	+107.7%	▲14.9	▲8.8%	10位
10位	スペイン	85.6	123.2	148.4	+25.2	+20.5%	+62.8	+73.4%	7位

地域別に外国人観光客の割合をみると、令和6年はアジア主要国からの観光客が全体の21.3%、欧米豪主要国からは51.4%、その他が27.3%であった。令和5年と比べると、令和6年は、広島空港国際線の直行便の再開、新規就航等により、アジア主要国の割合が増加している。

図表2-4 地域別外国人観光客数及び構成比の比較

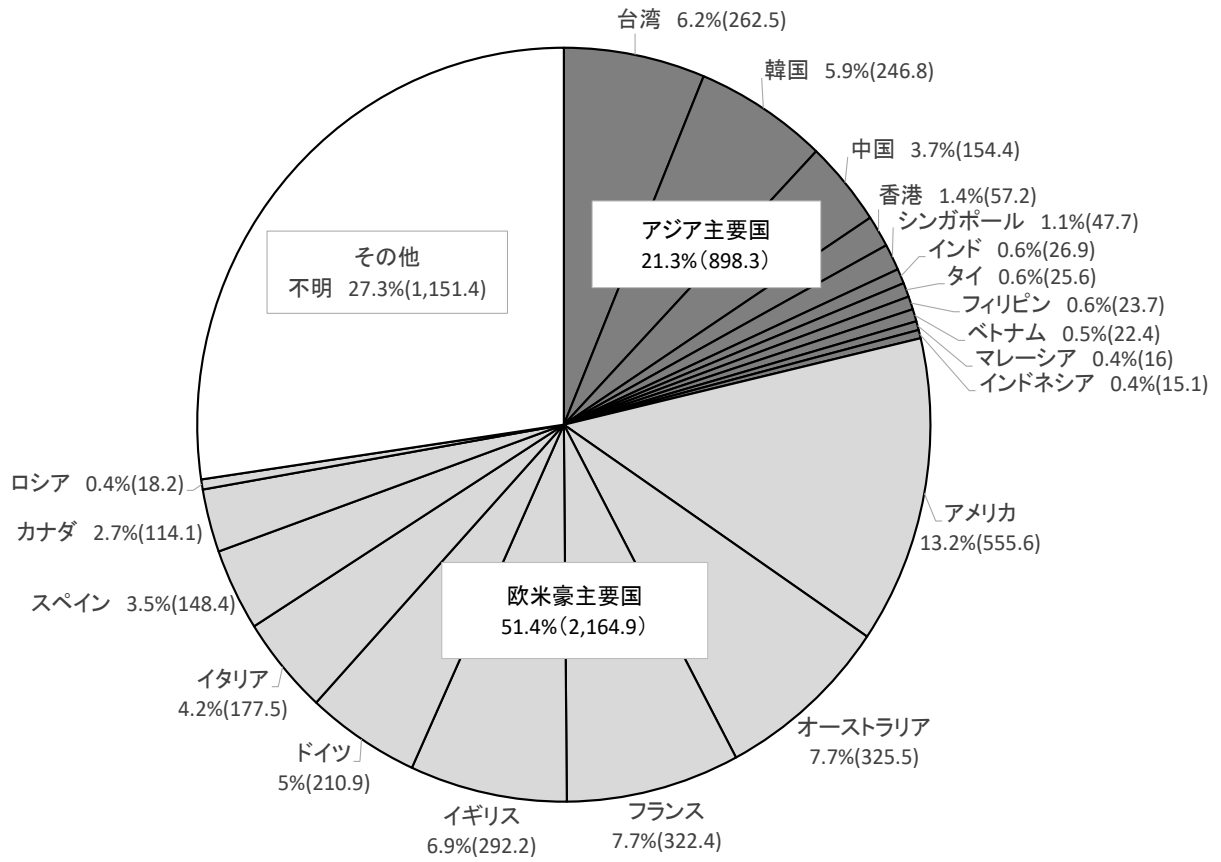
（単位：千人）

区 分	アジア主要国	欧米豪主要国	その他・国籍不明
平成31（令和元）年	794.9 (28.8%)	1,315.0 (47.6%)	650.2 (23.6%)
令和5年	507.9 (18.9%)	1,507.9 (56.2%)	665.8 (24.8%)
令和6年	898.3 (21.3%)	2,164.9 (51.4%)	1,151.4 (27.3%)

（注）（ ）内は構成比を示す。

図表 2-5 市場別外国人観光客数の割合

(単位：千人)



3 宿泊客数の状況

(1) 宿泊客数の概況

令和6年の宿泊客数は1,167万人泊で、前年と比べて165万人泊（+16.5%）増加した。うち外国人は180万人泊で、前年と比べて77万人泊（+74.5%）増加した。総観光客数同様、新型コロナウイルス感染症の収束により観光需要が回復したことに加え、広島空港の国際線直行便の再開や新規就航、円安の継続によって訪日需要が高まったことを背景に外国人観光客数が増加したこと等により、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成31（令和元）年と比べて158万人泊増（+15.7%）、うち外国人は50万人泊増（+38.6%）となった。

図表3-1 宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区 分	平成31 (令和元)年	令和5年	令和6年	増減数 R6-R5	増減率 R6/R5	増減数 R6-R元(H31)	増減率 R6/R元(H31)
宿泊客数	1,009 (130)	1,002 (103)	1,167 (180)	+165 (+77)	+16.5% (+74.5%)	+158 (+50)	+15.7% (+38.6%)

（注）（ ）内はうち外国人宿泊客数を示す。

(2) 地区別宿泊客数の状況

地区別にみると、宿泊客数が最も多い安芸地区①は、前年と比べて128万人泊増加し768万人泊（+19.9%）となった。

なお、外国人宿泊客数については、新型コロナウイルス拡大前の平成31（令和元）年と比べると安芸地区、備後地区は増加となった。

図表3-2 地区別宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区 分	平成31 (令和元) 年	令和 5年	令和 6年	増減数 R6-R5	増減率 R6/R5	増減数 R6-R元(H31)	増減率 R6/R元(H31)
安芸地区 ①	665 (118)	641 (90)	768 (156)	+128 (+66)	+19.9% (+73.5%)	+103 (+38)	+15.5% (+32.5%)
安芸地区 ②	130 (4)	121 (8)	131 (13)	+9 (+5)	+7.7% (+62.5%)	+1 (+8)	+0.8% (+194.3%)
芸北地区	10 (0)	8 (0)	8 (0)	▲0 (0)	▲3.0% (+165.0%)	▲2 (▲0)	▲19.0% (▲85.4%)
備後地区	171 (7)	202 (5)	233 (11)	+31 (+6)	+15.2% (+111.1%)	+61 (+4)	+35.7% (+52.1%)
備北地区	33 (0)	30 (0)	28 (0)	▲2 (▲0)	▲7.8% (▲35.1%)	▲5 (▲0)	▲15.6% (▲55.8%)

（注）（ ）内はうち外国人宿泊客数を示す。

また、宿泊客数の地区別構成比は、安芸地区①が 65.8%で最も高く、次いで備後地区の 19.9%となった。

平成 31（令和元）年から令和 2 年にかけては、安芸地区①の構成比が減少し、その他の地区の構成比がおおむね増加する等、平準化が進行していたが、令和 3 年から令和 6 年にかけては、安芸地区①の構成比が増加し、その他の地区がおおむね減少している。平成 31（令和元）年と比べると備後地区のみ 2.9%増となっており、その他エリアについては全て減少した。

図表 3-3 宿泊客数の地区別構成比

（単位：万人泊）

区 分	平成 31（令和元）年 構成比	令和 5 年 構成比	令和 6 年 構成比	増減 R6-R5	増減 R6-R 元（H31）
安芸地区①	65.9% (90.5%)	63.9% (87.0%)	65.8% (86.5%)	+1.9% (▲0.5%)	▲0.1% (▲4.0%)
安芸地区②	12.8% (3.4%)	12.1% (7.7%)	11.2% (7.1%)	▲0.9% (▲0.5%)	▲1.7% (+3.8%)
芸北地区	1.0% (0.3%)	0.8% (0.0%)	0.7% (0.0%)	▲0.1% (+0.0%)	▲0.3% (▲0.2%)
備後地区	17.0% (5.7%)	20.1% (5.2%)	19.9% (6.2%)	▲0.2% (+1.1%)	+2.9% (+0.6%)
備北地区	3.2% (0.2%)	3.0% (0.1%)	2.4% (0.0%)	▲0.6% (▲0.1%)	▲0.9% (▲0.1%)

（注）（ ）内は外国人宿泊客の構成比を示す。

(3) 月別宿泊客数の状況

令和6年の月別宿泊客数は、年間を通して前年より増加した。

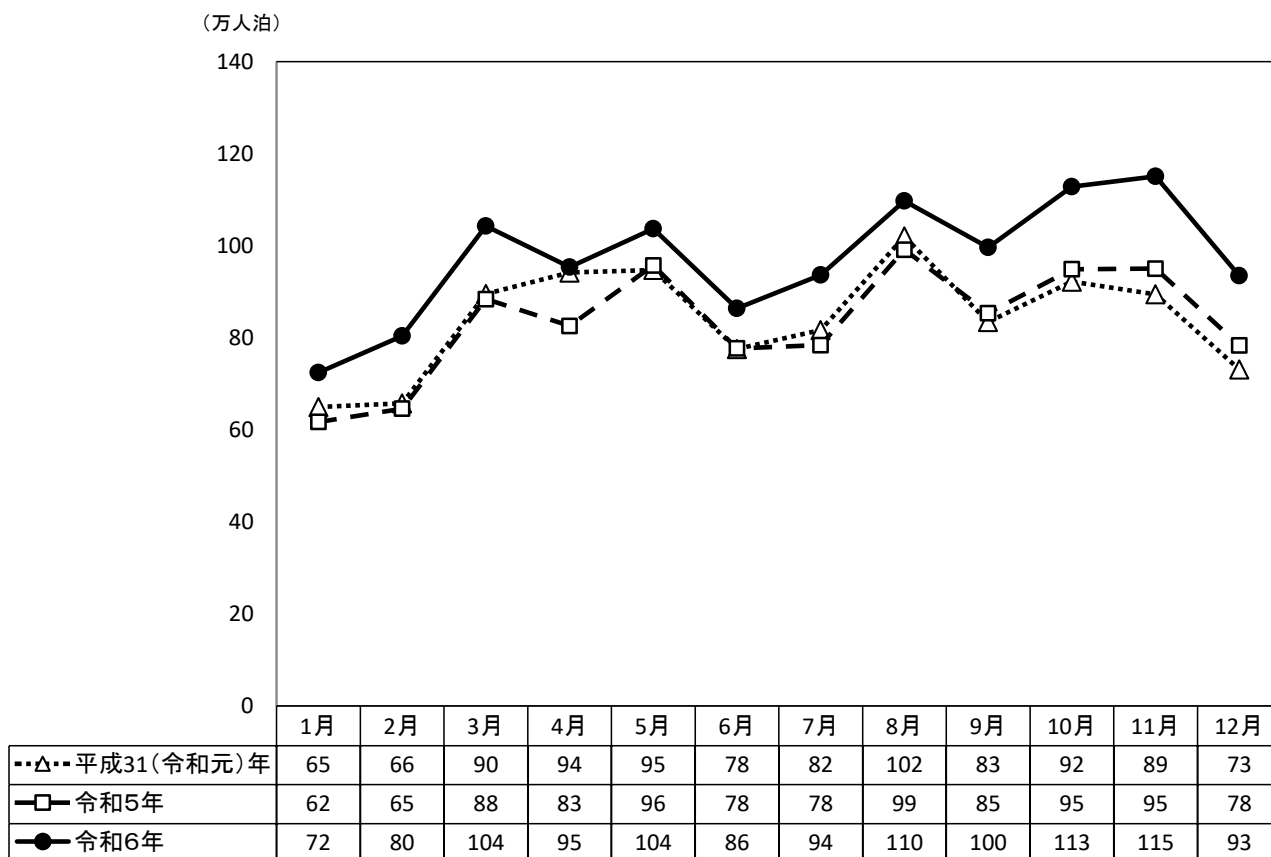
1月は「広島県宿泊促進キャンペーン」を実施した影響等により、前年同月と比べて17.4%増（72万人泊）となった。

2月～3月は、新サッカースタジアムの開設に伴うイベント参加者や広島空港の国際線直行便（広島ーソウル）の増便による韓国からの宿泊客数が増加したこと等が影響し、前年同月と比べて2月は24.5%増（80万人泊）、3月は17.9%増（104万人泊）となった。

4月以降は、県内各地でイベントや祭行事、式典が通常規模で開催され、円安基調を背景に例年よりも外国人宿泊客数が多かったことなどから、4月は15.5%増（95万人泊）、5月は8.3%増（104万人泊）、6月は11.2%増（86万人泊）、7月は19.4%増（94万人泊）、8月は10.7%増（110万人泊）、9月は16.7%増（100万人泊）となった。

10月以降は、江田島荘の「WORLD LUXURY HOTEL AWARDS 2024」3冠受賞や、きのえ温泉ホテル清風館の「温泉総選挙2024」絶景部門全国1位受賞、下瀬美術館のユネスコ「世界で最も美しい美術館」最優秀賞のベルサイユ賞受賞、日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞等が影響し、10月は18.9%増（113万人泊）、11月は21.1%増（115万人泊）、12月は19.3%増（93万人泊）となった。

図表3-4 月別宿泊客数の推移

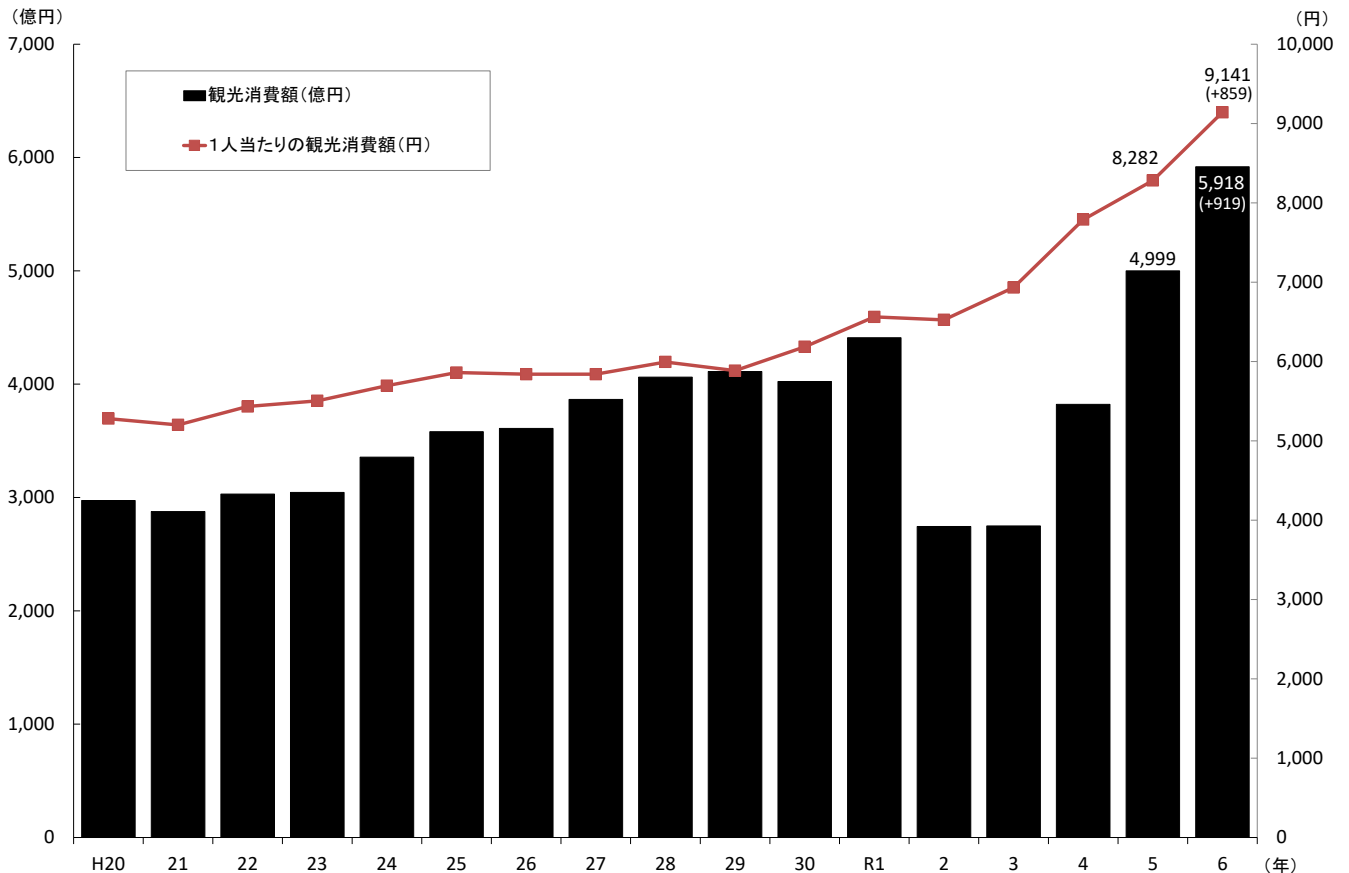


4 観光消費額の状況

令和6年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、土産代、飲食代、入場料等に消費した観光消費額の総額は5,918億円で、前年と比べて919億円（+18.4%）増加した。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額^{（注）}は9,141円で、前年と比べて859円（+10.4%）増加した。前年から継続する物価高による飲食代、土産代等が高騰している中、円安を背景とした外国人観光客の増加に伴い宿泊費も高騰したことで、観光消費額単価も増加したものと考えられる。

図表4 観光消費額の推移



区 分	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
観光消費額（億円）	2,974	2,876	3,030	3,045	3,356	3,580	3,610	3,865	4,062
1人当たりの観光消費額（円）	5,280	5,201	5,433	5,504	5,695	5,860	5,840	5,840	5,994

区 分	平成29年	平成30年	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
観光消費額（億円）	4,112	4,023	4,410	2,745	2,750	3,822	4,999	5,918
1人当たりの観光消費額（円）	5,884	6,185	6,562	6,525	6,933	7,789	8,282	9,141

（注）1人当たりの観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

Ⅲ 観光客数統計表